

## 会議報告

# さけます報告会

ひらま よしのぶ

平間 美信（北海道区水産研究所 さけます生産技術部 技術課）

## はじめに

「さけます報告会」は、昨年まで開催していた「さけます関係研究開発等推進会議成果普及部会」に代えて、漁業者やふ化放流関係者等とさけます類のふ化放流を科学的かつ効果的に推進し、ふ化放流技術等の普及や改善を促すことなど、関係者にとってより身近な報告会となるように今年度から新たに始めました。

## さけます報告会

平成 28 年 8 月 3 日に札幌市で、さけ・ますふ化放流事業に関する行政機関、試験研究機関、増殖団体、漁業者、さけ・ますに興味のある方、水産機構内関係部署等 232 名の参加の下、さけます報告会を開催しました。

主催者を代表して北海道区水産研究所中津所長の挨拶に続き、来賓を代表して水産庁増殖推進部栽培養殖課の伊佐課長から挨拶を頂き、7 課題について発表を行いました。

### 1. 北太平洋のサケ資源の状況とベーリング海調査結果について

北海道区水産研究所資源評価グループの鈴木主任研究員から、北太平洋のさけます類の商業漁獲量は平成元（1989）年から高水準にあり、サケについては平成 20（2008）年頃からはロシアの漁獲量が増加し、近年は日本とロシアの漁獲量が拮抗していること、ベーリング海調査では平成 26 年に続き平成 27 年も表面海水温が高く、捕獲努力量あたりの漁獲尾数（平均 CPUE）が少なかったことなどが報告されました。

### 2. 平成 28 年度北海道のサケ来遊予測

北海道立総合研究機構水産研究本部さけます・内水面水産試験場の藤原研究主幹から、昨年（平成 27 年度）のサケ来遊結果は前年より 5%増加したものの 4,000 万尾を下回っており、年齢別に見ると 4 年魚が多く、5 年魚が少なかったこと、今年（平成 28 年度）のサケ来遊数は、3,902 万尾と昨年を若干上回る予測となっており、年齢別に見ると 4 年魚は昨年を下回るものの、5 年魚は昨年を上回る予測となっていることが報告されました。



写真 1. 「さけます報告会」全景。



写真 2. 来賓挨拶：水産庁栽培養殖課 伊佐課長。



写真 3. (左)北海道区水産研究所 鈴木主任研究員  
(右)さけます・内水面水産試験場 藤原研究主幹。

### 3. 本州太平洋域に適応したサケふ化放流モデルの開発に向けた研究

東北区水産研究所さけます資源グループの八谷研究員からは、本州太平洋域の特性に合ったサケふ化放流技術の高度化に向けた研究として、飼育密度の低減や沿岸環境の変化への対応のために、一部の稚魚を通常より早い 2 月に放流する試みが紹介されました。また、早期に放流した場合の沿岸域の低水温が稚魚の成長や生残に及ぼす影響の調査を進めているとの報告がありました。

#### 4. さけの母川回帰精度について

北海道区水産研究所ふ化放流技術開発グループの福澤主任技術員からは、北海道の10河川で他河川由来のサケ親魚が迷入して遡上する割合を調べたところ、平均で0.03%、最も高い河川でも2.24%と少ないことが分かり、サケの母川回帰性は極めて高いことが報告されました。

#### 5. 北海道のサケ来遊傾向についてふ化放流データから検討する試み

北海道区水産研究所さけます生産技術部技術課の加藤連絡調整係長からは、北海道区水産研究所に長年蓄積されてきたふ化放流データを利用して、北海道のサケの来遊傾向や近年の減少傾向について検討した結果、過去においては生産重量や適期適サイズ放流の増加と4年後の来遊数の増加が似たような傾向であったが、平成16年度頃からはその傾向が一致せず、これまで蓄積したふ化放流データだけでは減少傾向の説明ができなくなったことから、今後は新たな指標の検討や、新たなデータの蓄積が必要であること。北海道全体で検討するよりも各地区レベルでの検討が重要であると報告されました。

#### 6. 効率的なサケ稚魚放流のための給餌に係る検討

北海道区水産研究所千歳さけます事業所の中島主任技術員からは、現有の施設能力等でサケ稚魚を生産すると成長が早く、回帰効果の低い放流適期前に放流せざるを得ない状況であることから、放流適期までサケ稚魚を飼育管理するためには稚魚の成長を抑える給餌方法等を開発することが重要と考え、今までと同様の施設能力で健苗なサケ稚魚を生産しつつ、放流適期まで管理可能な飼育方法の可能性について試験していることが報告されました。

#### 7. サケマス類の卵膜軟化症の原因と対策

北海道大学大学院水産科学研究院の笠井准教授からは、ふ化前に卵の膜が破れふ化率を著しく下げる疾病である卵膜軟化症の原因が、外部環境由来の細菌により卵膜表面を溶解されることが発症原因であることが明らかになったとの報告がありました。

#### アンケート結果

今後のさけます報告会を充実させるため、報告会の参加者にアンケート調査を実施しました。設問は「役立つ内容であったか」、「資料は役に立つ内容であったか」の2点についてです。回答して



写真4. (左)東北区水産研究所 八谷研究員  
(右)北海道区水産研究所 福澤主任技術員。



写真5. (左)北海道区水産研究所 加藤係長  
(右)北海道区水産研究所 中島主任技術員。



写真6. 北海道大学 笠井准教授。

いただいた参加者の多くは「はい」「まあまあ」(98%)の回答でした。一方「あまり」、「いいえ」(2%)の回答もあり、「全国的な来遊予測の発表」や「発表資料の配付」を要望された方がいました。また「取り組むべき研究開発課題やさけます報告会への意見・要望について」は、様々な分野の「研究課題の提言」や「研究結果の報告」など、多くの意見をいただきました。

#### おわりに

今年度から始めました「さけます報告会」は、さけますに関係する機関や団体に加え、さけますに興味のある一般の方々にも参加いただき、情報交換ができる貴重な場として提供していく予定です。

また、参加された皆様に協力を頂きましたアンケート調査の意見などを踏まえまして、より充実した報告会になるよう努めて参りますので、今後ともよろしくお願いたします。